



●越谷の保育園さんからヤキイモをしたいとの連絡をいただきました。何度かやりとりをしているうちに「ひょっとして、福玉便りの西川さん?」とのメール。連絡くださった主任の女性は、実は福島からの避難されて来た方でした。うれしい出会いでした。福玉便り編集部として取材にうかがいました。

ひろば

避難中の皆さんの声をお伝えするコーナーです。

※あなたの声をお待ちしています。編集部までお寄せください。

1月の冬晴れの土曜日。「あぜがみりんご保育園」(越谷市)を訪ねました。「福玉便り」の共同発行主体の一つである認定NPO法人ハンズオン埼玉が展開するキャンペーン「おとうさんのヤキイモタイム」(注)に園からお申込をいただき、やりとりの中で、「実は私も、福玉便りの読者です」と声をかけてもらいました。そこで、電話をくださった同園主任保育士の鈴木佳代さんにお会いすべく、焼き芋の煙があがる園庭におじゃましました。(編集部・西川)

鈴木佳代さん

(鏡石町↓越谷市)

東京の下町育ちで、結婚

して夫の両親の住む福島に移り住み子育てをしています。白鳥がいて、カエルがいて、つばめをねらった蛇が家にはいつてきて、はじめて、自然とともに暮らすことができて幸せでした。



震災直後、水道も止まったまま、ガスも使えず3週間すごしました。小6の長男の卒業式も延期になりました。その後、自宅の前が、がれき置き場になったこともあり、自宅の庭の芝の線量が通常の60倍だったんです。大丈夫だよ、と自

分には言い聞かせてはいたのですがだんだんとつらくな

夫の会社が地震で被災し、再建不可能になったこともあって、2011年夏、中1、小6、小4の3人の子と夫と犬と一緒に、私の両親が住む越谷へ避難してきました。犬と一緒に暮らせる住宅を探すのに苦労しました。

震災前まで幼稚園に勤めていました。子どもたちと離れるのはとてもつらかったです。しかし、信頼している園長先生が、

応援してくださり、送り出していただきました。そのことには本当に感謝しています。いまでも、その園長先生とはときどきお会いしています。ずっと福島で育って来た方や、仕事で離れられない方、いろいろな方がいらっしやいますよね。私も夫の会社が倒産してなければどうしていたかは、わかりません。

その後、11年の秋に、ハローワークの紹介で、越谷市役所の臨時職員となり、越谷市内に避難されている方を軒

ずつ訪ねました。家を流されたり、親族を亡くした方、帰るに帰れない方の事情やお気持ちをお聴く中で、自分より苦労している人がこんなに

にいる、くよくよしていないとはいけないと思いました。



その後、転職をしたりして、建設中のこの保育園を見つめました。「子どもを



見守る保育」をめざしていることが書かれていて、自分のやりたい保育ができるかもしれない、と、すぐに連絡して、採用となりました。縁だなあと感じています。

新しい保育園で、たくさんのお卒の若い保育士さんたちと日々、子どもたちの育ちを支えています。私の子どもたちには、「福島から来たって堂々といよいよ」と話していますが、学校で、地震や原発の話になると、先生から子どもに「どう思う?」と振られることがあるように、それがいやな時があるようです。当時の怖かった記憶もありません。避難訓練はつらいようです。

注:「おとうさんのヤキイモタイムキャンペーン」普段、都内で働いて地域になかなか知り合いがない埼玉のおとうさんたちと焼き芋をして交流しようというイベント。毎年秋に県内各地でおとうさんたちのグループによって開催されています。生協パルシステム埼玉さんから寄付いただいたお芋を贈って仲間づくりを応援するというものです。



園長先生が、

事業報告4：東日本大震災・原発事故の避難者支援

東日本大震災および原発事故の埼玉県内避難へ避難されている方向けの情報誌『福玉便り』の発行を他の団体と協力して継続発行しました。2014年9月からは、赤い羽根共同募金の助成をいただき発行しています（助成は、2015年8月まで）。印刷も引き続き富士ゼロックスの社員ボランティアの皆さんが無償で担ってくださっています。また、(一社)埼玉労協さんを中心に、定期開催されている『福玉会議』『福玉リーダー会議』を開催し、県内各地で活動している避難当事者グループおよび、支援者団体の意見交換、交流の場をもちました。

この一年の変化としては、従来から活動されていた浪江町の復興支援員さんに加え、埼玉には、富岡、双葉、大熊の各町が設置してい

る復興支援員事務所があり、福島県の復興支援員さんも昨年末から訪問などの活動がはじまっています。今後、支援員の方々との連携での支援をすすめていけたらと考えています。

2015年6月に、福島県は2017年3月で警戒区域外の避難者(自主避難者)の方々への住宅の提供(借り上げ住宅など)をやめ、あらたな支援にかえると発表しました。自主避難の方々は母子での避難が多く、二重の家賃を払っているかたも多数いるので、大きな不安が生まれ、編集部にもとどいています。「原子力事故子ども・被災者支援法」では、避難するしない、両方の選択を支援するとうたっており、唯一の支援策であった住宅支援がなくなることは、法の理念としてもどうか、という強い疑問の声もでています。

長期化する避難生活は、避難者というアイデンティティそのものをどう考

えるかという問いも生まれています。警戒区域も今後、徐々に解除されると発表されていますが、解除後は「自主避難」になる方もたくさんいらっしゃると思います。事情が複雑になるにつれ、孤立感を増していくものです。何が避難者の支援にあたるか、さらに難しくなっています。

これまで、「どの選択も応援する、いまの生活のプラスになることをお伝えする」という方針で、なんとか毎月発行してきました。今後も、毎月、お便りを発行することで、「一緒にいます」というメッセージだけはお届けしたいと考えています。

また、今後の長期的な支援を考え、新たな支援の枠組みを今年度中につくることを予定しています。2016年3月の震災・事故5周年に向けて、新組織設立をかねた、支援のキャンペーンを展開したいと考えています。



『福玉便り』の編集部へのご要望やメッセージ(福玉便り2号掲載分から抜粋)

毎月、毎日参加できるわけではないのですが、交流会の企画が載っていると嬉しく、みなさん元気かな?と考えます。『福玉便り』で埼玉の地名、地域を知る事ができています。本場にありがとうございます。(宮城県山元町↓埼玉県、60代女性)

都会生活に慣れてきました。が、地区の人々と挨拶くらいで福島にいたようなお話しは出来ず常に孤独感を持って生活しています。そんな時『福玉便り』により人に会いお話をできる楽しみをみつけ、うれしくなります。感謝。(千葉県↓さいたま市、70歳以上男性)

埼玉県に慣れ親しみたいので、県内の地域情報、見どころや、お店などの事は知りたい。(いわき市↓羽生市、40代女性)

『福玉便り』を読ませていただきます。ありがとうございます。こちらから交流会等にも出る

いので、福島の事を載せて頂いていて、読むのをのを楽しみにしております。これからも是非続けていただきたい。(大熊町↓桶川市、60代女性)

『お手紙ですよ』ぼろろん『の車のナンバ―話に共感しました。避難しているママにしか伝わらない複雑な気持ちを読んで、悩んだり心配するのは自分だけではないんだとホッとしました。(富岡町↓鴻巣市、40代女性)

交流会イベント情報、楽しく読ませていただき有難うございます。高齢者なので自動車運転も、この埼玉県の道路はよくわからないので、せっかくなので案内の交流会に参加できないのが残念です。交流会に1度参加させてくださいました。富岡出身の方の車で同乗させていただき、楽しい思い出になりました。『福玉便り』のお願いは健康に関するこ

と。介護施設、老人ホームの入所等に関することをお願ひします。(大熊町↓深谷市、70歳以上男性)

『福玉便り』は避難してきたすべての方々に寄り添って書かれている感じが安らぎます。また避難に際して必要な情報、深く切り込んだ情報も大変役立っています。『福玉便り』が手元に届くのがありがたいし、『福玉便り』に関わっている方々に感謝しています。(浪江町↓所沢市、40代女性)

友人知人がバラバラになってしまい、なかなか会うことができなくなっているのが、避難中の皆さんの声がとて興味があったり楽しみであつたりします。(いわき市↓埼玉県、50代女性)

様々な情報が不足していると感じます。様々な声もうれいのですが、より様々な情報が欲しいです。(福島市↓和光市、30代女性)

『福玉便り』は避難してきたすべての方々に寄り添って書かれている感じが安らぎます。また避難に際して必要な情報、深く切り込んだ情報も大変役立っています。『福玉便り』が手元に届くのがありがたいし、『福玉便り』に関わっている方々に感謝しています。(浪江町↓所沢市、40代女性)

友人知人がバラバラになってしまい、なかなか会うことができなくなっているのが、避難中の皆さんの声がとて興味があったり楽しみであつたりします。(いわき市↓埼玉県、50代女性)

様々な情報が不足していると感じます。様々な声もうれいのですが、より様々な情報が欲しいです。(福島市↓和光市、30代女性)

『福玉便り』は避難してきたすべての方々に寄り添って書かれている感じが安らぎます。また避難に際して必要な情報、深く切り込んだ情報も大変役立っています。『福玉便り』が手元に届くのがありがたいし、『福玉便り』に関わっている方々に感謝しています。(浪江町↓所沢市、40代女性)



【活動の記録】

『福玉便り』

仕様：月刊 A4 8 ページ

発行部数：4000 部

発行：『福玉便り』編集委員会

- ・一般社団法人 埼玉県労働者福祉協議会
- ・NPO法人ハンズオン埼玉
- ・生活協同組合コープみらい埼玉県本部

編集デザイン：NPO法人ハンズオン埼玉

印刷：富士ゼロックス埼玉端数倶楽部のボランティアのみなさん

送付：ボランティアのみなさん及び労福協スタッフのみなさん

助成：赤い羽根共同募金

2015年5月現在37号までを発行しています。通常、避難されている方向けに発行しているものとは別に、一般の方向けに避難の状況を知っていただく『2015年春の特別号』を発行しました。

ウェブサイトでもPDFを配信しています。



福玉会議。当事者組織、支援組織、福島の市町村の担当者の方々が集まって、状況や課題の共有を行いました。



今年度もゼロックス端数倶楽部のみなさんが毎月毎月、印刷をしてくださいました。

『福玉募金』

今年度も、福玉便りの発行はじめ、県内避難者支援を継続していくために募金活動を行いました。2年間で合計926,414円(2015.3月現在)をいただきました。

『福玉会議』『福玉リーダー会議』

3ヶ月に1回程度、開催 毎回、20団体以上が参加。



今年度も号外を発行しました。2015年3月「春の号外」号

福玉募金への協力、
ありがとうございます！

●福玉募金に 寄付をいただいた方からのメッセージ(福玉便り)の号記事よりの抜粋)

避難されている方から

○避難してきて知人のいなかった私にとつてもありがたい情報をいつもありがとうございます。

○いつも貴重な情報を載せた便りをありがとうございます。

○可能な限りとなりに居る人でありたいと願っています。

○楽しみにしています。知り合いに配りたいので多めにいただけませんか？

○いつもお世話になってありがとうございます。おかげさまでつながってるな、と感じます。

○イベントがたくさんある様です。少しでも多くに参加して皆様との交流ができればと思います。

○埼玉もよいところです。○いつもありがとうございます。感謝です。

○わずかな金額で申し訳なく思っています。お便りを毎月楽しみにしております。皆様の活動に心から感謝しています。

○避難されている方々の実情を知らせていくためにもたいへん貴重だと思えます。陰ながら応援させてもらいます。

○お役に立てばうれしいです。生きてゆかねばなりませんから。

支援いただいている方から

○応援しています。(ハンズオン会員)

○ささやかですが応援の気持ちです。

○家庭菜園で作った野菜を地域の方々に買っていたいたお金です。

○皆様お元気で、粘り強く！応援しています。

○長期の避難生活 福島、埼玉でがんばりましょう。

○とても記事が充実しておもしろいです。応援しています。

○朝日新聞のプロメテウスの罫を読みながらあの時の恐怖と絶望感を思い起こしています。未だもとに戻れない皆様のこと、絶対に忘れてはいけません！(毎月寄付を送付くださっています)

○避難していらつしやる方々、どうかご自分を責めないでください。

○避難者が思い出の埼玉県となるように頑張ってください。私達も一日でも早く帰れるように祈念しております。

○不安だらけですが安心して生活できるような活動をお手伝いしていきたいです。

○何もできないですが、思いだけは！風化させない！

○毎号拝読しています。編集部のみなさんには本当に敬意を表したいです。微力ですがこの福玉便りで現実を知ることと募金で関わっていきたくです。よろしく！

○お役に立てばうれしいです。生きてゆかねばなりませんから。

● 広域避難者支援・JCN地域調整員事業

福玉便り編集部との活動と平行して、ハンズオン埼玉として、2014年度は東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)よりの委託で、「地域調整員事業」を担いました

地域調整員は全国に散らばった広域避難されている皆さんへ、避難先での生活に少しでも役立つ情報を届けるべく、各地で実施している取り組みの情報を受発信することを目的としていました。

全国で12団体が地域をわけて、各地のNPOや避難当事者団体が担当し、ハンズオン埼玉の担当エリアは、埼玉、群馬、栃木、茨城、千葉でした。

JCNの専用サイトへの情報アップ、各地をたずねての状況把握などを行いました。



全国のイベント、交流会、招待などの情報が、JCNのこのページで紹介されています。随時更新されていますので、ぜひ御覧ください。
<http://fukushima.jpn-civil.net/>

☆関連事業 ～じしゅひなんママのきもちが奏でる～ぽろろん♪～

埼玉県内には1,123人の自主避難者がいます。避難されている方全体の5,509人のうち、およそ2割にあたります。(平成27年1～2月、福玉便り調べ)

「ぽろろん♪～」は福島から埼玉に自主避難しているママ5人と埼玉のママ3人が出会う、2014年3月から毎月会議を重ね、自主避難ママのネットワークづくりに取り組んでいます。初年度は、ハンズオン埼玉の理事吉田と谷居が参加しました。

福玉便り編集部との活動として、タケダ・赤い羽根広域避難プログラムの助成をいただいで活動しています。

活動内容

- ① 自主避難ママたちが交流するサロン活動の企画・運営
 - ・ 毎月の定例会議・夏のサマーランドバス遠足・ぽろろんクリスマスの時間
- ② メーリングリストでの情報提供、避難生活の悩みなどの声を伺いつつ
- ③ 寄せられた声や活動報告を、自主避難者向けのお便り『お手紙ですよ ぽろろん♪』としてこの3月までに2号発行しました。



JCN「避難されている方々へ」サイトに出稿した記事より (抜粋)

【ぽろろん♪クリスマスの時間】には2組の「交流会に参加するのは初めて」という母子も交え、日頃の悩みをおしゃべりしました。ここに、来られない人を想いながら。こどもたちは、ボランティアの学生と、つみ木遊びやくみボタンづくりを楽しみました。



みんな、避難当初は自主避難の遠慮からひっそりと過ごしてきたママたちです。だからこそ、未だ情報が届かず孤立している方たちに向けて「あの頃の自分への手紙」を書くようなつもりで「ことばを選び、伝えていこうね」と、つくってきました。

お昼を持ち寄りのランチ会議では、つつい脱線しがちな私たちでしたが、裁縫の得意なママがイベントに使う布の旗をつくり、経理の経験のあるママが会計を担当し、美味しいもの好きなママが埼玉みやげの取材をしてレポートを書き…「パソコンなど

触ったこともなかった」ママがメールのやり取りを難なくこなせるようにもなりました。

「切間際まで「どうしたら、読みたい、と思ってもらえるだろうか」表現の難しさと向き合うことになりました。私たちが「伝えたいこと」と、読んでくださる方が「読みたいこと」をどうつなげていくのか一迷いに迷って、練りに練った末、どうにかカタチになったお便りです。今でも迷うことだらけですが、新しい一歩を踏み出させる原動力は「伝えたい!」というきもちでした。



そんなママからのメッセージです。

「知らない土地で生活する重圧に心が折れそうになっても子供の前では親としての使命感を果たさなければならぬという責任に押し潰されそうな日々を送っていました。福玉便りの交流会を見ても、行く気になれず(略)新しい事を始める第1歩は勇気もいるし、時間がかかったりと、人それぞれ違うけど、目の前の扉を開けた瞬間、そこには必ずあなたの居場所がある事を忘れないで」